にちぎん

SUMMER 2022　NO.70

CONTENTS

2　エッセイ／“おかね”を語る
お金と小説　小説家　原田ひ香

4　インタビュー／扉を開く
隈 研吾　建築家／東京大学特別教授・名誉教授
偉ぶらない建築をつくる

10　対談／守・破・創
飯森範親　指揮者
雨宮正佳　日本銀行副総裁
コロナ禍が教えた文化芸術活動の大切さと
指揮者が多様な奏者を束ねる方法

14　日本銀行のレポートから（1）
「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）―2022年4月―

16　地域の底力――岐阜県恵那市
ふるさとへの愛と誇りが導く岐阜県恵那市のまちづくり

23　FOCUS → BOJ ㊵ 日本銀行決済機構局 決済システム課デジタル通貨グループの仕事
未来を見据え中央銀行デジタル通貨の検討に尽力

27　日本銀行のレポートから（2）
「金融システムレポート」―2022年4月―

33　トピックス
中央銀行デジタル通貨に関する実証実験（概念実証フェーズ2）を開始 ほか

35　AIR MAIL from New York
ニューヨークの緑

※取材は感染対策を徹底して実施しています。
本誌は6月3日（金）までの情報をもとに掲載しています。

表紙のことば

表紙の店舗は、日本銀行函館支店の三代目店舗（一九五四年の増改築後）です。大正十五年（一九二六）に末広町一番地に建設され、現店舗のある東雲町（しののめちょう）に昭和六十三年（一九八八）に移転するまで、六〇年以上もの間使用されました。

三代目店舗の建設にあたっては、関東大震災（一九二三年）の経験を踏まえ、当時日本銀行の建設でも主流であった耐震・耐火構造の鉄筋コンクリート造りの建物となりました。

三代目店舗にて営業中の昭和四十三年（一九六八）七月には、函館市志海苔町（しのりちょう）の道路拡幅工事現場において、三つの大甕（かめ）とそこに詰められた三七万四千枚もの大量の古銭が地中から発見されました。これらの古銭は市立函館博物館に運び込まれ、当時の日本銀行函館支店職員も約半年にわたり、休日に古銭の洗浄と整理の作業にあたりました。また、銭種の分類などについては、日本銀行本店の職員も手伝いにあたりました。

そして現在、この三代目店舗は「函館市北方民族資料館」として利用されています。日本銀行の現存する支店で二番目に長い歴史を持つ函館支店は、今後も地元とともに歩みを続けてまいります。

表紙・画　北村公司